

学校評価実践報告

(学校経営・運営ビジョンの重点目標に対する自己評価)

令和元年度「学校経営・運営ビジョン」に掲げた4つの重点目標に対して自己評価を行った。生徒、保護者、教職員からのアンケート調査を参考に行ったものである。その結果の概要は以下の通りである。なお、評価については、A、B、Cで表した。

A 十分に達成された B おおむね達成できた C 達成状況は不十分である

1 明るく活気に満ちた学校

重 点 目 標	評 価
1 自分の適性・能力を把握し、よりよい自分になるための前向きな努力をしている。	A
2 本校が学習しやすい環境に整備されている。	A
3 生命の大切さを認識し、安全に対する意識がある。	A
4 教育活動の内容を伝えるため、地域や家庭に向けて情報発信している。	A

- 教員が生徒に自己肯定感が持てるように指導していると生徒も感じているが、保護者は35%弱努力をしていると感じている。保護者は、よりよい自分になるために努力している生徒がいると思っているので、教員側もさらに生徒が自己肯定感が持てるように指導しなくてはならない。
- 保護者は、学習しやすい環境に整備されていると思っている。保護者は学習しやすい環境に整備されていると感じているので、教員は勉強に頑張っ取り組むように指導する。
- 生命の大切さを認識し、安全に対する意識があると思いますかとの項目では、生徒、保護者とも6割弱が「A」評価をしている。今後も大切な事であることから継続で取り組んでいきたい。
- 保護者は、本校の教育活動について、地域や家庭に向けて情報発信していると3割弱が思っている。学校行事など、たくさんあるので、常に地域の皆さんへ向けて、情報発信のためにHPの更新を随時行う。

2 バランスのとれた人間を育成できる学校

重 点 目 標	評 価
1 学校生活を通して人間性が豊かになったと思いますか。	B
2 基本的生活習慣が身に付いている。	A
3 悩み事や困ったことを相談しやすい環境である	B
4 授業や行事などを通して異文化を理解しようとしていたか。	B

- 充実した学校生活が送れるように行事などが活発に運営されている。
- 基本的な生活習慣の確立のための指導がなされていると生徒は特に考えている。
- 保護者、教員から教育相談の体制がほとんど確立されているという評価を得ている。
- 学校からの情報についてはホームページなどから得ている。
- 非常時に対応した訓練を行っている、生徒の意識は高く、真剣に訓練を行っている。
- 異文化を理解しようとしている生徒、保護者が8割前後だが、教員の項目では6割台になっている。106周年を迎えたことで、より魅力的な学校作りを目指すことが必要であるとする。

3 夢が実現できる学校

重 点 目 標	評 価
1 進路目標を明確に考えている。	A
2 検定試験等に積極的に取り組んでいる。	A
3 学校からの進路に満足しているか、また適切な進路指導が行われているか。	A
4 学び続ける力の必要性を理解した。	A

- 進路指導部・各学年及び全教職員の連携が図られ、進路指導対策の効果が表れている。
- 多くの生徒は、進路実現に向けて真摯に取り組んでいる。
- 生徒は進路実現に向けて授業、部活動、ガイダンスやホームルーム活動に真剣に取り組む、「B」評価まで含めるとほとんどの項目で8割前後を越えているので、生徒も保護者も学校の指導に理解は示されている。
- 検定試験の合格者数や部活動の大会結果など、学校経営運営ビジョンの目標に向けて教員は努力している。生徒や保護者は、検定試験等に積極的に一生懸命に取り組んでいるという評価である。

4 学習と部活動が両立できる学校

重 点 目 標	評 価
1 学習と部活動の両立を図っている。	B
2 生徒会活動に関する様々な行事や活動に積極的に参加している。	B
3 部活動に積極的に参加している。	B
4 学校と家庭の間で情報を共有し、連携が取れている。	A

- 生徒も教員も熱心に部活動に取り組んでおり、多くの保護者はその状況を理解している。

- 部活動と学習の両立を図るため調査前・調査中の部活動の時間を短縮するなどの対策を講じている。
- 家庭学習と部活動が両立していると回答している生徒は6割以上になるが、家庭での学習時間が少なく定着していないと考えられる。
- 多くの生徒は概ね部活動と学習を両立させているが、両立したいと思っても、体力的に続かない生徒もいるので、教員のアプローチにも工夫が必要となる場面もある。

5 商業科の人づくりビジョン

重 点 目 標	評 価
ビジネスマナーが身についたか。	A
思いやりの気持ちと気配りが身に付いた。	A
コミュニケーション能力が身についた。	B
場面に応じ適切な意思疎通する能力が身についた。	A

重 点 目 標	評 価
流通ビジネス科の目標を理解し、それに向かって努力しているか。	A
情報システム科の目標を理解し、それに向かって努力しているか。	A
オフィス会計科の目標を理解し、それに向かって努力しているか。	A

重 点 目 標	評 価	
流通ビジネス科の目標取得資格	日商販売士2級	B
情報システム科の目標資格取得	ITパスポート	B
オフィス会計科の目標資格取得	日商簿記2級	B

- 生徒も教員も熱心に「ビジネスマナーの育成」に力を入れて今年度取り組んでおりましたが、その結果「A」「B」評価を合わせると9割以上が身についたと感じている。しかし保護者は8割弱であり、「A」評価は2割と低かった。
- 思いやりの気持ちと気配りが身についたかについては、生徒、保護者ともに高い評価をしているが、教員は生徒に対して評価は少し低く、さらに身につけてほしいと感じている。
- 「コミュニケーション能力の育成」では生徒は「A」「B」評価を合わせて8割以上身についたと考えているが、もっと努力してほしいと願っている。
- 所属学科の目標を理解し、それに向かって努力しているかについては、オフィス会計科所属の生徒及び保護者は「A」評価が5割以上いる。これは学校生活が満足に送られていることである。他学科所属の生徒にも同様に満足のいく学校生活が送れるよう指導していきたい。

- どの学科も目標とする高度資格取得には力を入れているが、オフィス会計科が生徒、保護者とも高い評価をしている。

6 終わりに

各部活動とも実績を上げており、多くの部において地区大会を勝ち抜き、県大会出場を果たし、東北大会・全国大会へと出場している部もある。部活動加入率が減少していたことから部活動への全員活動加入を原則とし、活性化に向けての取り組みを行っている。

地域との連携については、一日参観デーの際、保護者だけではなく地域住民の方にも来ていただけるように連携を図った。また、吹奏楽部や郷土芸能保存会（じゃんがら念仏踊り）、フラダンス愛好会は、その特色や実績により地域からの依頼による諸行事に参加している。学習の成果発表の場として、また部活動の一環として地域社会との積極的なかかわりを持つことができた。

就業体験活動については、2年生が3日間のインターンシップを体験させることにより、働くこと、生きることの尊さを実感させ、勤労観、職業観を醸成することができた。

広報活動としてホームページの更新を随時行なった。学校行事や大会結果等を更新したが保護者からはさらに多くの情報発信をとの声もあり、校内での活動内容や様子を配信した。今後さらなる創意工夫が必要と思われる。また、災害発生時などの情報伝達については、今後とも迅速な対応が求められており、次年度の課題である。